

10月10日

テーマ：エルサレム入城 にゅうじょう

聖書箇所：マタイの福音書 ふくいんしょ 21章 しょう 1節～11節 せつ

◆今日のみことば

もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。  
マタイの福音書 ふくいんしょ 21章 しょう 3節 せつ

◆メッセージ

ゆかりちゃんは小学3年生。中学生のお姉さんがいます。そして今日は、その中学校の運動会。ゆかりちゃんも、お父さんお母さんと一緒にお姉さんを活躍を見るために中学校にやってきました。「さんくみ～！ゴーファイト～」。クラスの男子たちが、声をひとつにして応援しています。その隣では、ピンクや黄色の衣装を着た女子たちが、オリジナルのダンスで応援しています。「きれいだな～」。ゆかりちゃんは、はやく中学生になりたいと思いました。でも、応援団の中にも、ダンスチームの中にも、お姉さんはいません。あたりを見回しました。すると応援団のおかげで、何かぬいものをしているお姉さんを見つけました。ゆかりちゃんが近づくと、お姉さんも気づいてほほえみ返しました。「お姉ちゃん、何をぬっているの？」「これはね、うちのダンスチームの衣装。さっき破れちゃったので、直してるの。私はおどるのは苦手だけど、自分のぬったものがみんなの役に立つんだと思うと、とてもうれしいの」。走る人、応援団で声を出す人、ダンスする人、衣装を縫う人、いろいろな人がいて、運動会なんだなあ、とゆかりちゃんは思いました。

今日の聖書箇所は、イエスさまが十字架にかかるためにエルサレムに入られるときに、たくさんの人々が思いをひとつにして働いたことが書かれているところです。

「ろばの子をほどいて、連れてきなさい」というイエスさまの言葉に従った、二人の弟子たち。イエスさまのためにろばの子を貸してくれた村の人。そのろばの子に乗



ったイエスさまの進む先に、自分たちのうわぎやたくさんの木の枝を敷き詰めた人びと。思いをひとつにしたのは人間だけではありません。か弱いろばの子も、同じ思いのなかで、イエスさまを背中に乗せながら歩いて行きました。みんなが自分のできることや持っているものを、イエスさまのためにささげました。いやいやながらではありません。喜びに満ちあふれていました。なぜなら、私たちがどんなに小さくて弱い者でも、「わたしはあなたを必要としているのだよ」とイ

エスさまは声をかけてくださるからです。

そしてきょう、私たちひとり一人にも、「主がお入用なのです」と呼びかけてくださるのです。

◆お祈り

「神さま、今日一日、神さまのお役に立てるように、おみちびきください。」

(豊栄キリスト教会牧師 近 伸之)